

問1 日本銀行の役割の一つである「政府の銀行」としての業務の説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

1. 国が発行する国債の事務を行ったり、税金の受け入れを管理したりする。
2. 国内で流通する紙幣を独占的に発行し、通貨の価値を安定させる。
3. 民間の金融機関に対して、資金が不足した際に貸し出しを行う。
4. 国民から預金を集め、その資金を公共事業に直接投資する。

問2 好況期において、日本銀行が「売りオペレーション」を行う主な目的と、その仕組みを説明した文として正しいものを次から選びなさい。（2020年 島根公立入試 類似）

1. 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。
2. 市場の通貨量を増やすことで金利を低下させ、企業の投資を促進するため。
3. 日本銀行の保有する国債を減らすことで、政府の財政赤字を解消するため。
4. 通貨の流通を活発にすることで失業率をさらに下げ、国民所得を増やすため。

問3 私たちは、必要なものをすべて自分で作る「自給自足」の生活ではなく、他者が生産した物やサービスと自分の持つものを取り取りすることで生活しています。このような交換を円滑に行うために貨幣が担っている、商品の価値を共通の物差しとして数値化する役割を何といいますか。（2023年 兵庫公立入試 類似）

1. 価値の尺度
2. 支払いの手段
3. 価値の保存
4. 流通の強制

問4 かつて行われていた「物物交換」と比較したとき、社会に貨幣が普及したことで得られた経済的な利点として、適切な説明はどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。
2. 貨幣自体が食べ物や衣服のように生活に直接役立つため、交換しなくても豊かになれるようになった。
3. すべての商品の価値が貨幣の素材（金属など）の重さだけで決まるようになり、価格変動がなくなった。
4. 貨幣があれば労働をする必要がなくなり、社会全体の生産性が飛躍的に向上した。

問5 不景気の際、日本銀行が景気を刺激するために、一般の銀行が持っている国債などを買い取る「買いオペレーション」を行います。この政策によって期待される、市場への直接的な効果として最も適切なものはどれですか。（2023年 山梨公立入試 類似）

1. 日本銀行から代金が支払われることで、一般の銀行が持つ資金量が増え、企業などへの貸し出しが促進される。
2. 日本銀行が国債を売却することで、市場を流通する通貨の量を減らし、物価の上昇を抑える。
3. 政府が国民から集める税金の額を増やすことで、公共事業を拡大するための財源を確保する。
4. 一般の銀行が日本銀行に預ける準備金の割合を引き上げることで、銀行の経営を安定させる。

問6 家計が銀行に資金を預ける際の利子と、銀行が企業へ資金を貸し付ける際の利子の関係について、銀行が経営を成り立たせるための意図として正しい説明はどれですか。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 貸し付けの利子を高くすることで、企業の過度な借入れを抑制し、景気の過熱を防ぐため。
2. 預金の利子を低く抑えることで、家計の貯蓄を減らし、消費活動を活性化させるため。
3. 預金者に支払う利子と貸し付けで受け取る利子の差を利益とし、人件費や店舗の維持費などの経費をまかなうため。
4. 日本銀行の指示により、すべての銀行が共通の利益率を確保し、金融システムの安定を図るため。

問7 日本銀行が、景気の安定を図るために公開市場操作などの手段を用いて、世の中の通貨量や金利を調整する政策の名称を何といいますか。（2020年 愛媛公立入試 類似）

1. 金融政策
2. 財政政策
3. 産業政策
4. 貿易政策

問8 家計から銀行などの金融機関へ預金が行われ、その資金を金融機関が企業に貸し出す「間接金融」に対し、家計が証券市場を通じて企業に直接資金を供給する「直接金融」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 金融機関が仲介役となり、預金者の代わりに貸付先の審査やリスク管理を行う。
2. 企業が株式などを発行し、金融機関を介さずに投資家から資金を直接募る。
3. 日本銀行が通貨供給量を調整することで、市場全体の金利に影響を与える。
4. 政府が公共事業を行うために、国債を発行して家計から広く資金を集める。

問9 資金の貸し借りが行われる際、借りた側が元金（もとの金額）の使用に対する対価として、貸した側に支払うものを何といいますか。銀行と預金者の間、あるいは銀行と企業の間でのやり取りにおいて発生する名称を答えなさい。（2019年 埼玉公立入試 類似）

1. 利子
2. 配当
3. 手数料
4. 元金

答え合わせ・解説

問1	答え 1 国が発行する国債の事務を行ったり、税金の受け入れを管理したりする。	日本銀行には3つの大きな役割がありますが、そのうち「政府の銀行」とは、国（政府）のお金を扱う業務を指します。具体的には、政府の資金である税金の管理や、政府の借金にあたる「国債」の発行・支払事務などの窓口となります。紙幣の発行は「発券銀行」、民間銀行への貸し出しは「銀行の銀行」としての役割です。
問2	答え 1 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。	好況時に日本銀行が国債を売ると、民間金融機関が手持ちの資金を支払いに充てるため、市場の通貨量が少なくなります。お金の供給が減ると資金調達が難しくなり、金利（利子率）が上昇します。これにより、企業や個人の借入れが抑制され、消費や投資の勢いが落ち着くことで景気の過熱が抑えられます。
問3	答え 1 価値の尺度	貨幣には主に、交換を仲立ちする「交換の媒介」、モノの価値を測る物差しとなる「価値の尺度」、富を蓄える「価値の保存」といった役割があります。自給自足ではない社会において、肉と野菜のように性質が異なる商品を円滑に交換するためには、それらを「価格」という共通の単位で比較できるようにすることが不可欠です。
問4	答え 1 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。	物物交換では「自分が持っているもの」と「相手が欲しがっているもの」が完全に一致しなければ取引が成立しませんでした。しかし、貨幣が交換手段として機能することで、いったん商品を貨幣に換え、その貨幣を用いて別の場所や時間で自分が必要なものを手に入れることができるようになりました。このように、貨幣は交換の不一致を解消し、取引を円滑にする背景を持っています。
問5	答え 1 日本銀行から代金が支払われることで、一般の銀行が持つ資金量が増え、企業などへの貸し出しが促進される。	景気が後退している局面では、日本銀行が市場の国債などを買い取ることで、その代金として大量の資金が一般の銀行に流れ込みます。これにより、世の中に出回る通貨供給量（マネタリーベース）が増加し、銀行が企業や家計に対して低い金利で積極的に貸し出しを行えるようになるため、経済活動の活性化が図られます。
問6	答え 3 預金者に支払う利子と貸し付けで受け取る利子の差を利益とし、人件費や店舗の維持費などの経費をまかなうため。	銀行も一つの企業として営利を目的としており、従業員の給与やシステム管理、店舗運営のための費用が必要です。そのため、預金者に対しては低い利子を支払い、一方で資金を貸し付ける側からは高い利子を受け取るという仕組みによって、運営に必要な利益を確保しています。もし貸し付けの利子が預金の利子を下回れば、銀行は逆ざやの状態となり、経営を継続することが困難になります。
問7	答え 1 金融政策	中央銀行である日本銀行が、景気や物価の安定を目的として、国債の売買などを通じて世の中の通貨量をコントロールすることを金融政策と呼びます。主な手法は公開市場操作です。政府が行う増減税や公共投資などの経済対策は財政政策と呼ばれ、これらは「景気の調整」という目的は共通していますが、実施する主体と手段が異なります。
問8	答え 2 企業が株式などを発行し、金融機関を介さずに投資家から資金を直接募る。	直接金融は、資金の余っている家計などが、資金を必要としている企業に対して、金融機関を通さずに資金を供給する点に特徴があります。この方式では、投資に伴うリスクは投資家（家計など）が負うこととなりますが、企業にとっては銀行の意向に左右されず、広く市場から資金を集められるメリットがあります。
問9	答え 1 利子	資金の貸借において、元金に対して支払われる対価を利子（または利息）と呼びます。銀行にお金を預けることは、銀行にお金を貸している状態であるため、預金者は銀行から利子を受け取ります。反対に、企業が銀行から設備資金などを借りる場合は、企業が銀行に対して利子を支払います。これに対し、株式会社が利益の一部を株主に還元するものは「配当」と呼ばれます。